2026 年 11 月 13 日

報道関係各位

三 菱 地 所 株 式 会 社
三菱地所レジデンス株式会社
三 菱 地 所 ホ ー ム 株 式 会 社
株 式 会 社 三 菱 地 所 設 計
三菱地所ウッドビルド株式会社
MEC Industry 株式会社

「ウッドデザイン賞 2026」 三菱地所グループ全体で 5 件受賞

三菱地所グループの三菱地所株式会社、三菱地所レジデンス株式会社、三菱地所ホーム株式会社、株式会社三菱地所設計、三菱地所ウッドビルド株式会社、MEC Industry 株式会社は、ウッドデザイン賞 2026 において、5 件受賞しました。

＜ウッドデザイン賞 2026 受賞プロジェクト一覧（全 5 件）＞
【プロダクツ分野】「Rushood musu」
【コミュニケーション分野】「森林（もり）と都市（とし）の顔が見える持続可能な木材活用モデル ～伐って、使って、植えて、歩み寄る～」
【建築・空間分野】「PRISMⅡ」
【建築・空間分野】「Hirooka Terrace」
【建築・空間分野】「東京国際空港（羽田空港）第 1 ターミナル北側サテライト」

「ウッドデザイン賞」は、木を使って様々な社会課題を解決するモノ・コトを表彰し、国内外に発信するための顕彰制度です。「建築・空間」「技術・建材」「プロダクツ」「コミュニケーション」「調査・研究」の 5 分野と「ライフスタイルデザイン」「ハートフルデザイン」「ソーシャルデザイン」の 3 部門で構成されています。

三菱地所グループでは、CLT をはじめとした国産木材の活用を推進しています。今後とも、国産木材の活用により、国内林業の活性化や山林防災、ひいては地方創生等につなげていきたいと考えています。


▲Rushood musu


▲森林（もり）と都市（とし）の顔が見える
持続可能な木材活用モデル


▲PRISMⅡ


▲Hirooka Terrace


▲東京国際空港（羽田空港）第 1 ターミナル北側サテライト

■受賞の概要

【Rushood musu】（プロダクツ分野）

株式会社三菱地所設計、三菱地所株式会社、三物建設株式会社、株式会社イケヒコ・コーポレーション

＜概要＞

苔むすように都市に佇み、人と街、素材と時間をつなぎながら、工芸と公共空間の新たな関係を編み出すベンチ。 観光客とオフィスワーカーが交差する丸の内二丁目ビルの風除室に、忙しない都市の日常の中でふと立ち止まれる「間」を創出することを目指した。

名称の「Rushood musu」は、Rush（い草）と Wood（木）、そして時を重ねながら定着していく様子を表す「苔むす」を重ねた造語である。活用先の限られる国産小径木と国産い草という二つの地域素材を用い、「山」と「田」に根差した一次産業を結びながら、木の温もりやい草の香り、手仕事ならではの柔らかな質感を通じて、利用者が素材の背景にある風土や産業に触れる体験を生み出す。福岡・熊本で育まれたい草を職人が一本ずつ束ねて畳表で包む独自工法と、組み替え可能な木構造を組み合わせることで、失われつつある日本の素材文化に新たな価値を与えた。また、部材の更新や再構成を可能とする構造により、長期利用と資源循環にも配慮している。都市と地域、生産者と利用者をつなぐ媒介として、地域素材の新たな需要と循環を生み出すことを目指す。

2026 年 2 月より丸の内二丁目ビルで日常的に利用され、工芸と都市をつなぐ新たなベンチとして定着している。







撮影：関 拓弥

【森林（もり）と都市（とし）の顔が見える持続可能な木材活用モデル
～伐って、使って、植えて、歩み寄る～】

（コミュニケーション分野）三菱地所レジデンス、秋田県大館市、北鹿地域林業成長産業化協議会

＜概要＞

三菱地所レジデンス・秋田県大館市・北鹿地域林業成長産業化協議会は、2025 年 8 月 25 日に「大館市産森林認証材等の利用拡大に関する建築物木材利用促進協定」を締結し、「伐ったら、植える」を合言葉に森林認証材活用を推進している。この連携協定の中で、これまで直接つながる機会の少なかった木材の供給側と需要側が、対話や現地視察などを通じて相互理解を深め、需要と供給をマッチさせた森林認証材導入の仕組みを構築した。実物件への導入に向け、社員が大館市・北鹿地域を訪れ、森林学習や植林体験、製材所・木材加工現場等の視察を実施した。木材を単なる建築資材ではなく、「地域の未来を支える大事な資源」として捉える意識の醸成にもつながった。また、開発計画段階から三菱地所レジデンスが「使いたい木材」と地域が「供給できる木材と時期」を共有し、伐採から加工・製品化までを見据えて互いに“歩み寄る”ことで、森林認証材の計画的な物件導入を実現し、秋田県大館市産・北鹿地域産森林認証材を「ザ・パークハウス 武蔵小杉タワーズ」「ザ・パークハウス グラン 仙台広瀬町」へ採用した。さらに、本取り組みを三菱地所レジデンスだけに留めず、地域と企業が連携できるロールモデルとして情報発信等による普及啓発を行い、他地域・他企業への展開や森林認証材利用の拡大につなげる活動も進めている。



三菱地所レジデンス　大館市　北鹿地域 林業成長産業化協議会

■秋田県大館市産および北鹿地域産の木材をマンションに活用



▲ザ・パークハウス 武蔵小杉タワーズ



▲ザ・パークハウス グラン 仙台広瀬町

参考：　https://www.mecsumai.com/kinomori/community/odate/

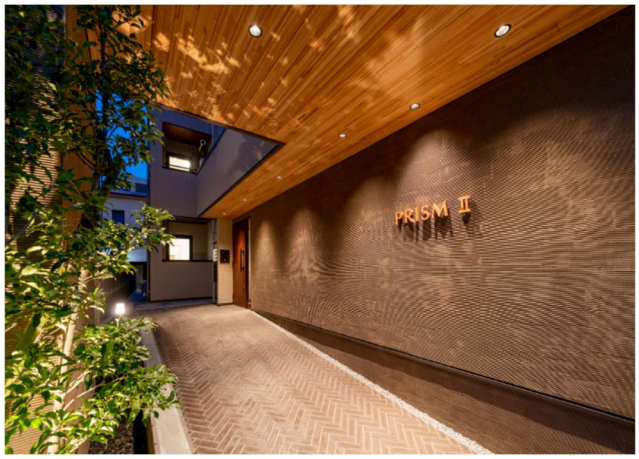
【PRISMⅡ】（建築・空間分野）
三菱地所ホーム株式会社、 MEC Industry 株式会社、三菱地所ウッドビルド株式会社 、
株式会社三菱地所設計、近代産業株式会社

＜概要＞

PRISMⅡは、都市部で木造化が進みにくい 4 階建共同住宅において、南九州産杉材を活用した木造耐火建築として計画されたプロジェクトである。構造材 135 ㎥のうち約 57%に国産材を使用し、利用期を迎えながら活用が進んでいない大径木の需要創出を通じて、森林資源の有効活用と再造林を支える循環型社会の実現に貢献している。こうした社会的意義や先進性が評価され、国土交通省「令和 6 年度 優良木造建築物等整備推進事業」に採択された。

本プロジェクトでは、MEC Industry 株式会社が南九州産材の原木調達・製材加工、三菱地所ウッドビルド株式会社が木材調達・プレカット・建て方、株式会社三菱地所設計が監修・アドバイザー、三菱地所ホーム株式会社が設計監理・施工を担当。調達から施工までグループ各社が連携したサプライチェーンを構築し、国産材の安定供給やトレーサビリティ、品質確保を実現した。

また、準防火地域に建つ 4 階建耐火建築物として、防耐火性能と木質デザインを両立。外観や共用部、サイン計画に至るまで国産木材を活用し、利用者が日常的に木の温もりや質感を感じられる空間を創出した。さらに、RC 造と比較して建設時の $LCCO_2$ を約 100 トン削減し、構造材には 98t-CO_2 を貯蔵。木材利用による脱炭素化と森林循環の促進を図りながら、都市型木造建築の新たな可能性を提案している。







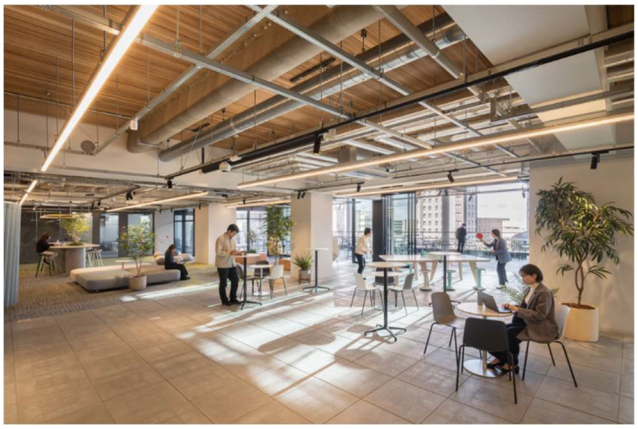


【Hirooka Terrace】（建築・空間分野）
株式会社三菱地所設計、株式会社北國銀行、清水建設株式会社北陸支店

＜概要＞
会話や協創が生まれる大らかな共用部を中心に計画したテナントオフィスビル。隣接する「北國銀行本店ビル」（2014 年竣工、設計：株式会社三菱地所設計）とブリッジで接続し、互いの機能を共有するとともに、建物内外に設けた共用部が多様な働き方を生み出す。全テナントが利用できるテラス・ラウンジは、水平方向に加え階段や吹き抜けで上下方向にも連続。ジャロジー窓やルーバーの配置は温熱・風環境シミュレーションにより最適化し、快適な環境を実現した。
木材活用においては、MEC Industry 株式会社の配筋付型枠製材「MI デッキ」を大規模に採用し、木の香りが感じられる開放的なオフィス空間とした。さらに、外装を支持する木方立には石川県産能登ヒバ、家具やアートには石川県産スギ端材を用いるなど、地域木材を積極的に採用。木材利用を通じて木質建築の普及やカーボンニュートラルの推進に貢献するとともに、能登半島地震で被害を受けた県内木材産業の復興支援にもつなげている。

上・左下撮影：福田駿、右下撮影：FOTOTECA







【東京国際空港（羽田空港）第１ターミナル北側サテライト】（建築・空間分野）
株式会社梓設計、日本空港ビルデング株式会社、大成建設株式会社、株式会社三菱地所設計

＜概要＞
将来の航空需要拡大への対応と旅客利便性向上を目的とした空港旅客ターミナル施設。羽田空港で初となる鉄骨造・木造ハイブリッド構造を採用し、「人にも環境にもやさしい先進的空港」の実現を目指している。株式会社三菱地所設計は技術アドバイザーとして参画し、日本空港ビルデング株式会社（事業者）、株式会社梓設計（設計監理者）、大成建設株式会社（施工者）と連携しながら、構造計画やコスト検討、施工性などに関する多角的な検証を通して、木造・木質化を支援した。
本施設では、国産のカラマツやスギなど約 1,800 ㎥の木材を使用し、1 階を鉄骨造、2 階以上に木造を取り入れたハイブリッド構造を実現。これにより、建設時の CO_2 排出量を約 2,630t 削減した。また、ゲートラウンジやコンコース、連絡通路、固定橋の内装にも木材を採用し、空港利用者に木ならではの温もりや心地よさを提供している。木材利用による CO_2 排出量の削減や森林資源の循環に貢献するとともに、「ZEB Oriented」を取得するなど、木造・木質化と環境性能の両立を図っている。

上撮影：川澄・小林研二写真事務所、左下・右下撮影：エスエス 上田新一郎







以　上